

いつもやよい図書館をご利用いただきありがとうございます。


毎日本当に暑いですね！ やよい図書館の隣には中央本町プールがあるのですが、プールの前後に図書館にみえる子どもたち、ご家族連れがたくさんいらっしゃいます。プールと読書…考えてみればどちらも至福の時間ですね。その間にアイスがあればもっと幸せ！

さて、この時期に読書の習慣をつけておくと、他のさまざまな経験や知識の吸収に大変役立ちます。考えるもとになるのは言葉です。ぜひ、たくさん好きな本を読んで言葉の海を泳ぎましょう！そして、7月20日からは読書ラリーが始まります。本を読んでクイズに答えるとハムハムグッズがもらえるよ！ たくさんの参加をお待ちしています。

## 俺の一冊・私の一冊

中央本町地域学習センター・やよい図書館で働くスタッフが、それぞれ自信を持っておすすめする1冊をご紹介します。みなさん、ぜひ読んでみてください！

### 館長の一冊

『なつのいちにち』 はたこうしろう／著 偕成社 

今月ご紹介するのは絵本です。夏が近くなると必ず取り出してきて眺めてしまう大好きな作品です。ある男の子がたった一人でクワガタを探りにいくストーリーなのですが、1ページごとに繰り広げられる夏の風景は、太陽の暑さ、土や木の匂い、川の水音などすべてを肌で感じることができるくらい豊かな色彩で表現されています。夏休みにこのような経験ができたらとてもすてきですね。今はもうクワガタを探りに行くことはない大人も、とても懐かしく感じるのではないのでしょうか。夏を満喫できる1冊です！

### 俺の一冊（小滝）

『最長片道切符の旅』 宮脇 俊三／著 新潮社 

テレビと本との邂逅だ。学生時分、深夜テレビで見知らぬ老人がひとり進行役をしながら、ウイスキーを片手に延々鉄道談義をしていた。その語り口に私はどんどん引き込まれ、思わずビデオに録画した。それから約20年経ったある日、書店で何気なく1冊の鉄道本を手にとった。もうお分かりだろうか。それが20年前の老人、宮脇氏の著作だったのだ。ページをめくるなり、時間を忘れてその内容に引き込まれた。紀行文でありながら、彼の情景描写はもう芸術にまで達している。鉄道に全く興味がない方もぜひ読んでみてほしい。

### 私の一冊（田中）

『キャベツ炒めに捧ぐ』 井上 荒野／著 角川春樹事務所 

著者は2008年に『切羽へ』で直木賞を受賞した井上荒野です。物語の舞台となるのはとある商店街の惣菜屋です。常にハイテンションの江子、口の悪い麻津子、なにか秘密を抱えていそうな郁子の3人の中年女性が織りなす人生の泣き笑いを描く連続短編小説です。「ひろうす」「桃素麺」「キュウリいろいろ」「穴子と鰻」など読んでいただけでおながか空いてくるタイトルですよ。さて、読みたくなってきませんか？ でも、決して電車の中で読むではいけません。できれば1人になれる場所で読みましょう。なぜなら、私のように笑いが止まらなくなります。

## 読書の窓



### 8月 冒険！




8月30日は、1970（昭和45）年に植村直己氏がマッキンリー単独登頂に成功し、世界五大陸最高峰の征服を成し遂げたことを記念した冒険家の日です。それにちなみ、今回は冒険に関する本を集めました！

#### 『クローディアの秘密』

E. L. カニグズバーグ／著 岩波書店


「こんな家、もううんざり！」家出を決意した少女クローディアは、お風呂好きできれい好きな女の子。ジャングルや街を放浪するのは無理だと感じた彼女は弟のジェイミーととある場所へ向かいます。さて、2人が行きついた先は…？ 姉弟のかけあいにも注目です。

#### 『ピノッキオの冒険』

コッローディ／著 岩波書店 


ディズニーの映画でもおなじみ、操り人形のピノッキオが本物の子どもになるまでのお話です。やんちゃなピノッキオがだいたいい子になっていく様子は、まるで本物の子どもの成長を見守っているようです。百年以上読み継がれた名作、ぜひ一読ください。

#### 『一〇〇年前の世界一周 ある青年が撮った日本と世界』

ワルデル・アベグ／写真  日経ナショナルジオグラフィック社


百年前のひとりの青年が世界一周の旅に出ました。彼が持っていたカメラには色鮮やかな世界が写っています。今話題の富士山も、当時の着物姿の女性も、西部劇に出てくるような街並み、カウボーイも写っています。皆さんもこの本で時の冒険に出してみませんか？

#### 『雪のひとひら』

ポール・ギャリコ／著 新潮社 

この話は、小さな雪のひとひらの一生を描いたものですが、それは一人の女性の誕生から死までの物語でもあるのです。どこかに出かける大きな冒険でなくても、生きること自体が冒険でもあるのです。暑い夏に涼しくなるような白い表紙が目印です。

#### 『大冒険術 生き残るための！』

かざまりんぺい／著 誠文堂新光社 

普通のキャンプも面白いけれど、冒険を試みたい！ だけど、やり方が分からない。この本はそんな自然の中で冒険するために必要な知識がイラスト豊富に紹介されています。「道具なしで魚を捕まえる」等々、豆知識として知っておくのも楽しいかも？

### ☆読書の小窓☆

今回紹介するのは、マシュー・ヴォーン監督の映画「スターダスト」です。この物語は美しい村娘の為に、流れ星を持ち帰ると約束した冴えないトリスタンが、天から降ってきた星のイヴェインと冒険するファンタジーです。魔女や空飛ぶ海賊が出てきてわくわくするお気に入りの一作です。ラブストーリーでありながら、所々に散りばめられた笑いにも注目して観てもらいたいです。（坂）